

案件概要表

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	スリランカ
2. 案件名	トリンコマリー県の地元資源を生かした循環型農業の普及による小規模農家の持続可能な生計の確保
3. 事業の背景と必要性	<p>スリランカの輸出産業のうちの約 21%が農業分野（米・紅茶等）となっている。（出典：外務省 HP）。スリランカにおいては、これまで限られた農地で人口の増加による食料需要に対応し、作物の生産性を最大化するために化学肥料や農薬といった農業化学資材の使用が推奨されてきた。他方で農業者は農業化学資材の適切な使用に係る知識が不十分であり、これにより土壌の劣化が進み、農家はさらに農業化学資材を必要とするという悪循環につながっている。自然体系におけるこの悪循環を打破するには、農業化学資材の使用を抑制し、有機農業を導入することが不可欠である。</p> <p>2019 年以降スリランカ経済が徐々に悪化するなか、新型コロナウイルス感染拡大後は主要産業の観光業が衰退し、外貨不足により燃料、医薬品・食品等の必需品の輸入供給が困難となっている。農業においても、農業化学資材の輸入禁止措置が 2021 年 4 月に取られ、スリランカ政府は以前のように農家に農業化学資材の配布を行わず、国をあげて有機農業を推進していく方針を打ち出した。このような状況から、農家は経済的な理由からも有機農業を導入する必要性に迫られている。</p> <p>本事業では、トリンコマリー県農業局をカウンターパート機関とし、地域で調達可能な有機堆肥などの資源を使用した有機農業に取り組むことで、小規模農家の生計向上を目指すものである。</p>
4. プロジェクト目標	トリンコマリー県内の小規模農家が最適な栽培技術や、地元資源を生かした有機堆肥・自然農薬を活用して、営農・土壌改善を図り、持続可能な農業が営めるようになる。
5. 対象地域	東部州トリンコマリー県
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	対象地域の 8 村落の小規模農家 1,080 人、農業局の農業指導員 (Agriculture Instructor: AI) 及び農業技術アシスタント (Technical Assistants: TA) 約 30 名
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象村落を担当する農業局の AI/TA が循環型農業に向けた農業技術の普及ができる。 2. 対象村落の小規模農家が最適な栽培技術や有機堆肥・自然農薬を使用し、営農改善を図る。 3. 対象村落の小規模農家が有機堆肥や有機物を用いて地力回復に継続的に取り組む。 <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1 トリンコマリー県内の AI/TA を対象とした定期勉強会の開催。 1-2 年配の農家でも理解できる栽培技術や有機堆肥・自然農薬生産に関する教材を作成する。 1-3 対象村落を担当する AI/TA がモニタリングを実施したり、オンライン・ツールを使用したリして、農家の状況や課題等を共有できる仕組みを作る。 1-4 AI/TA を対象とし、最新の有機農業技術を学ぶために、広島県・神石高原町の TANABE FARM に派遣し、2 週間の実地トレーニングを行う（2 年次） 2-1 対象村落にて、有機農法の基本的な考え方や土壌の仕組みを学び、土壌にあった有機堆肥と液肥の作り方のワークショップを複数回行う。 2-2 対象村落にて、野菜ごとの特性を考慮した栽培時期や育苗方法を学ぶワークショップを複数回行う。 2-3 対象村落にて、野菜ごとの特性を生かした仕立て・剪定方法や、よく発生する病害虫とそれに対応する自然農薬作成方法を学ぶワークショップを複数回行う。 2-4 対象村落にて、簡易会計簿のトレーニングを複数回行う。 2-5 対象農家への定期訪問によるモニタリングを実施し、トレーニング内容が実践されているか確認し、データベースによって進捗状況、対応内容などの共有を行う。 2-6 ファーマーズ・マーケット（直売市）を定期開催し、地産地消を促進する。 3-1 土壌診断を希望する対象村落の農地にて AI/TA が簡易土壌診断を行う。 3-2 AI/TA が土壌ごとに適した有機堆肥や土壌改良方法を提案する。 3-3 有機堆肥・液肥・自然農薬の生産支援を行う。
8. 実施期間	2023 年 8 月～2026 年 7 月（計 36 か月）
9. 事業費概算額	8 千 8 百万円

10. 現地カウンターパート	トリンコマリー県農業局
II. 実施団体の概要	
1. 提案団体名	特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
2. 活動内容	緊急・復興支援および開発事業